

IMF サーベイ

IMF・世界銀行年次総会

ラガルド専務理事：より迅速な、よりバランスのとれた回復を促す政策が必要

2013年10月10日



ラガルド専務理事：特に先進国・地域と新興市場国・地域に影響を及ぼす経済成長のパターン、および金融部門の変化がシフトしている（写真：Stephen Jaffe/IMF）

- 回復は続いているものの、緩慢で不均一
- 全加盟国が一丸となって成長をより包摂的、持続可能にしなければならない
- 貧しい国々への融資を維持する資金準備が完了

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、2013年 IMF・世界銀行年次総会での記者会見で、政策担当者が広範な分野で政策を強化することで、余りにも緩慢でばらつきのある世界経済の回復を活性化することが可能だと強調した。

また、世界がグレートリセッション（大規模景気後退局面）から立ち直るなか、我々は現在「グレートトランジション（大規模移行局面）」期に向かって進んでいると付け加えた。

ラガルド氏は、特に先進国・地域と新興市場国・地域に影響を及ぼす経済成長のパターン、および金融部門の変化がシフトしている。また、多数の中央銀行が採用した金融政策も移行期にあると述べた。

これらの移行には時間を要するうえ、慎重かつ密接に提携して管理する必要があるとラガルド氏は説明した。専務理事はワシントンで開催される年次総会の開始にあたり、これらの解決策は「できるだけ各国ごとに」、「できる限り協力して」実施する必要があると報道陣に語った。年次総会には、IMF 加盟 188 カ国、政府関係者、市民社会団体、報道陣、招待された学会や民間からの参加者が集う。

また、ラガルド氏は、長年の取り組みの結果、IMF 加盟国は最貧国のための主要な融資制度に、金売却に伴う想定外の利益の 90%超を拠出することで合意したことを発表した。

「低所得国の資金調達ニーズに対応するため現存する金の売却益を移譲する上で必要な加盟国の承認が規定水準に達した」。これにより IMF の譲許的融資能力は持続可能だとラガルド氏は付け加えた。

一丸となって取り組む

専務理事は、成長をより包摂的かつ持続可能とするために、広範な分野でより強力な政策をとるように加盟国に呼びかけた。

米国は、極めて緩和的な金融政策からの出口を非常に注意深く管理する必要がある。また、財政の正常化も必要である。「債務上限の引き上げに失敗すれば、波及効果によって米国のみならず全世界の経済に大きなダメージを与えかねない」とラガルド氏は警告した。

ユーロ圏は銀行の修復を終了し、銀行同盟を推し進め、経済成長と雇用創出を阻害する障害を取り除く必要がある。

新興市場国・地域の火急の優先事項は、当面の金融の混乱をできるだけスムーズに乗り切り、一方で中期成長への構造上の障壁を取り除くことである。

低所得国は、引き続き世界経済のボラティリティから生じる可能性がある影響から自らを守るための政策を実施する必要がある。

ラガルド氏は、**移行期にあるアラブ諸国**も、更に雇用を創出するより包摂的な経済に向かって引き続き道を進んでいくことが必要だと付け加えた。

専務理事は開会の記者会見で、世界経済、IMFのガバナンス改革、米国の債務上限の波及効果、および中国、ギリシャ、ポルトガル、ナイジェリア、スペイン、スロベニア、エジプトといった国の問題に対する取り組みなど、多岐にわたるトピックを取り上げた。

関連リンク：

[ビデオを見る](#)

[年次総会ウェブサイト](#)

[世界経済の見通し](#)

[国際金融システム](#)

[ラガルドの新グローバルアジェンダ](#)

[IMF、最貧国向け譲許的融資を確保](#)